

1. 目的

細砂通過放流の効果的な運用を検討するため、H22年度短時間集中豪雨対策実施結果の再現性を確認したモデルを用いて、下記に示すようなシミュレーションを実施した。

2. 検討ケース

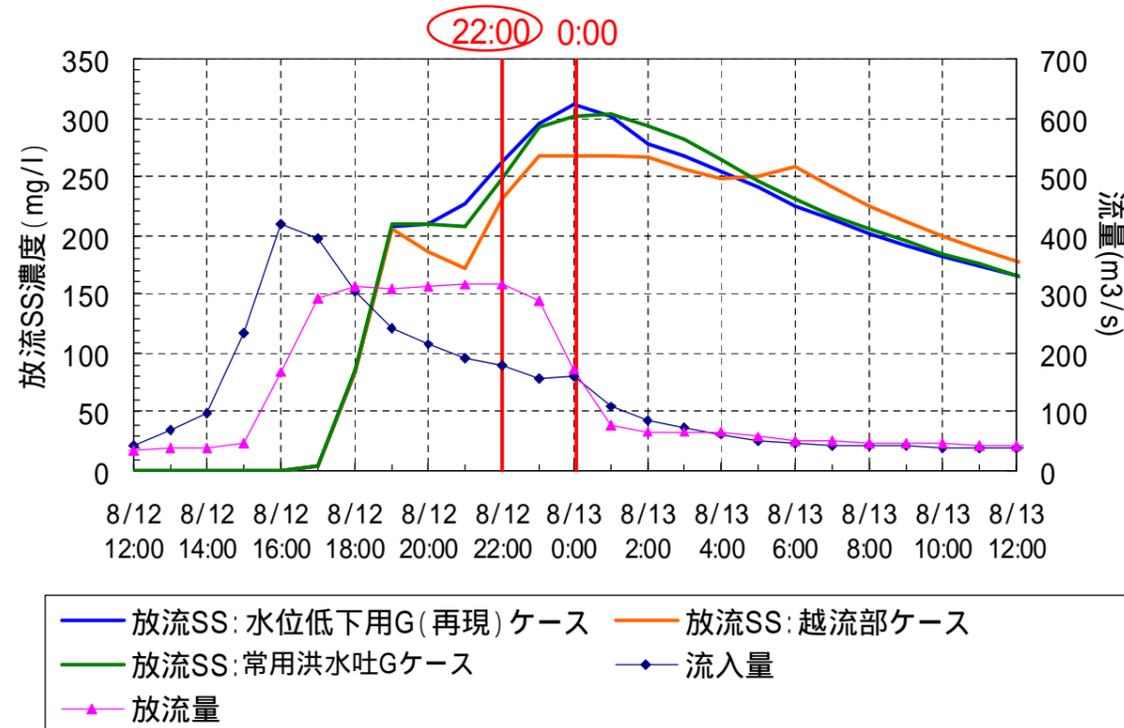
検討ケース	運用ケース名	ゲート			備考
		水位低下用ゲート	越流部	常用洪水吐ゲート	
梅雨明後 (H22短時間集中豪雨対策実績)	水位低下用G(再現)ケース			×	H22短時間集中豪雨対策の再現
	越流部ケース	×		×	通常のダム運用
	常用洪水吐Gケース	×			常用洪水吐ゲートを用いた場合

3. 計算条件

使用波形	初期河床条件	給砂条件	発電運用	運用条件
			宇奈月発電	
H22短時間集中豪雨対策実施波形	H22試験通砂後河床	H22短期間集中豪雨対策後の河床条件と同様になるように固定したパターン	H22実績運用	ゲート操作タイミングについてはH22実績より

4. シミュレーション結果

シミュレーション結果を次ページ以降に示す。

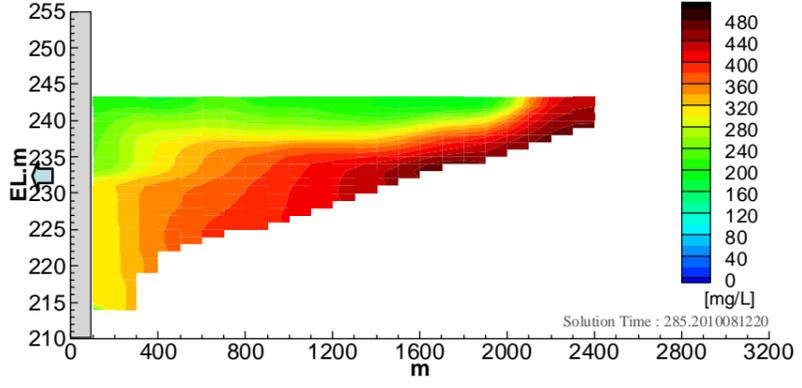
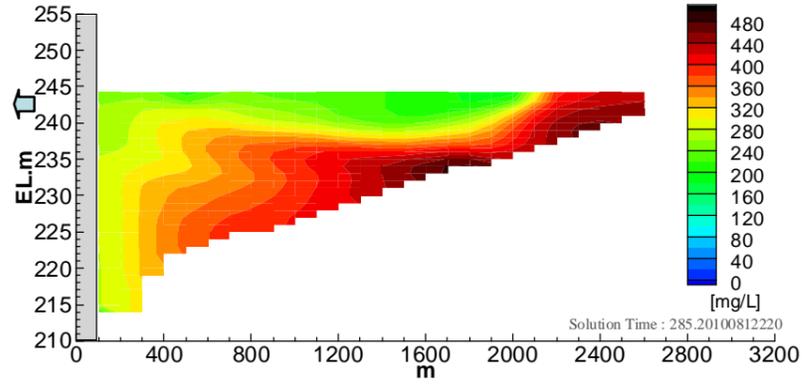
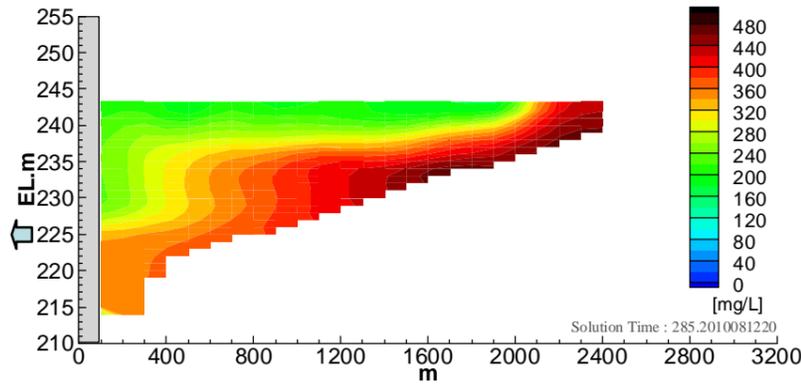


【凡例】

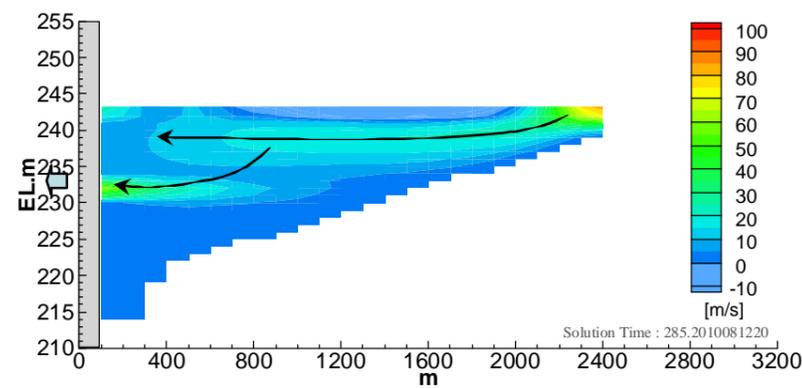
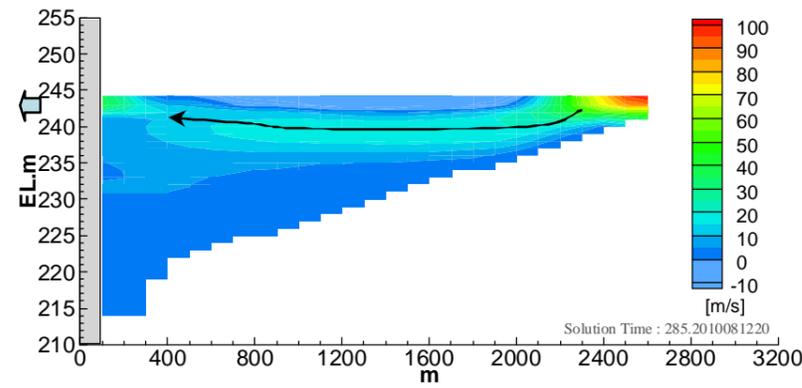
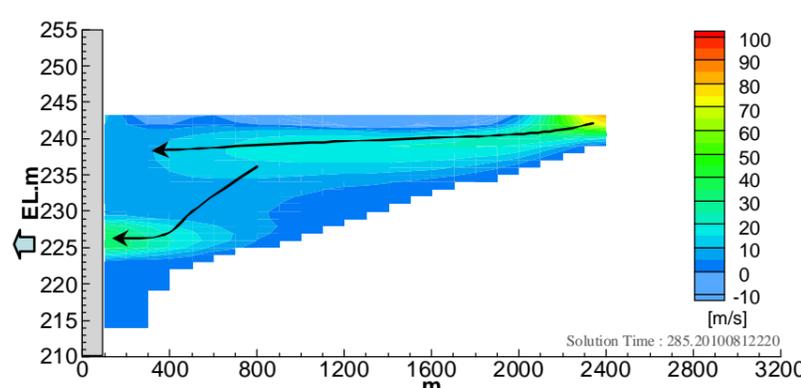
- ⇐ : 放流位置
- ← : 流れの状況を模式的に表したものの

8/12 22時

SSコンター図



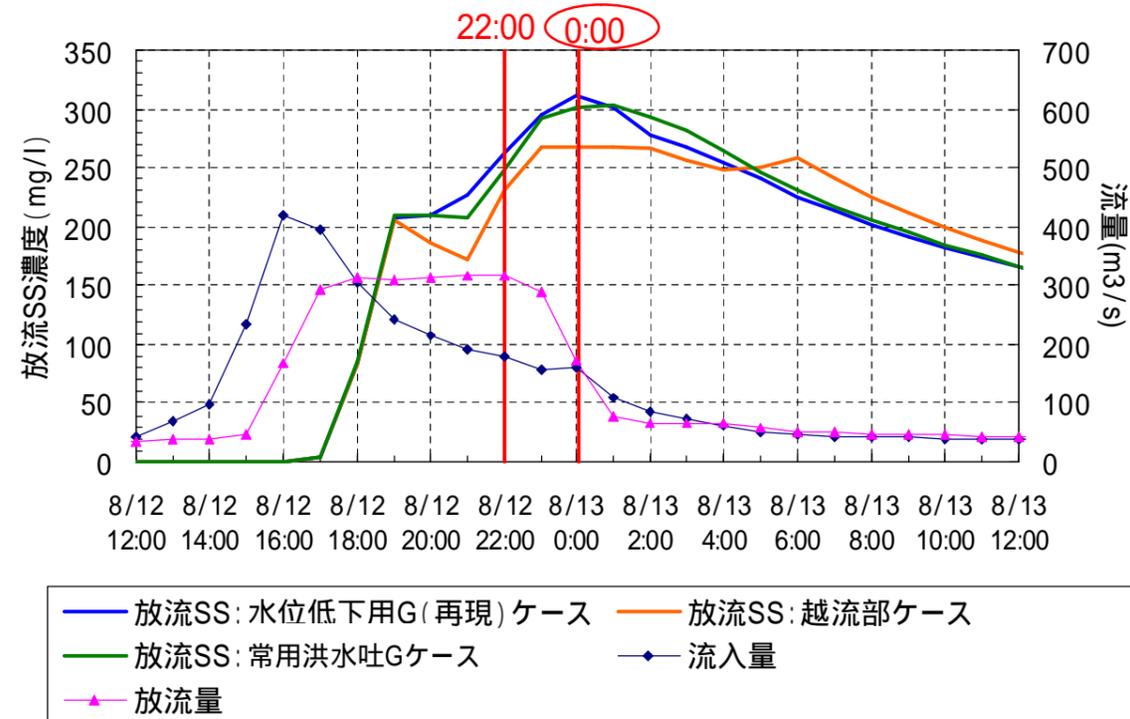
水平流速コンター図



水位低下用G(再現) ケース

越流部ケース

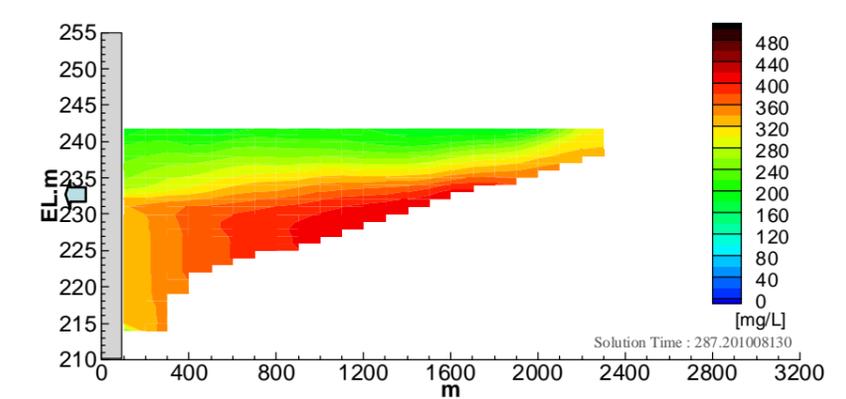
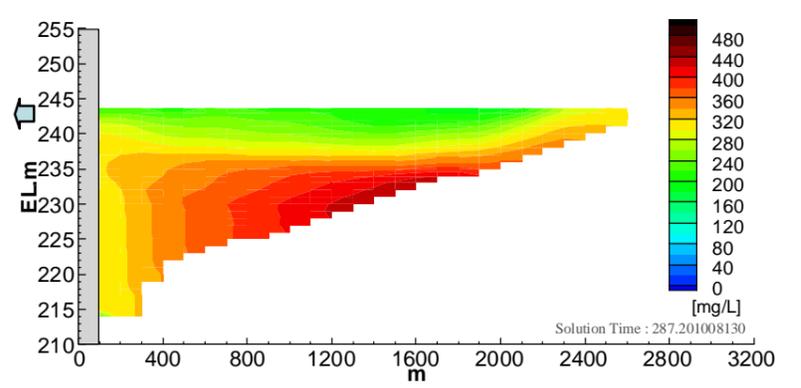
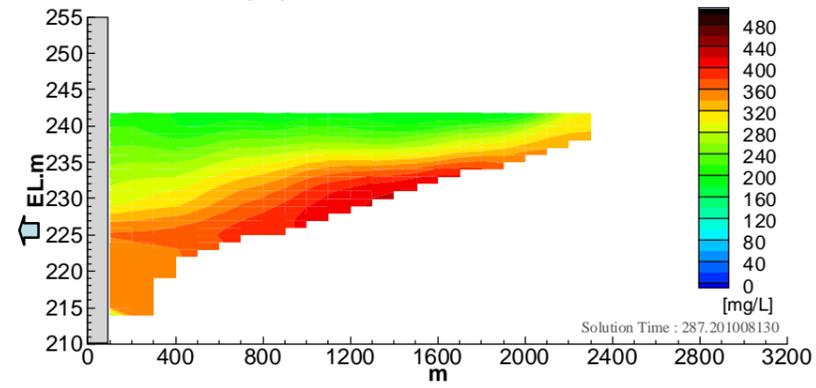
常用洪水吐Gケース



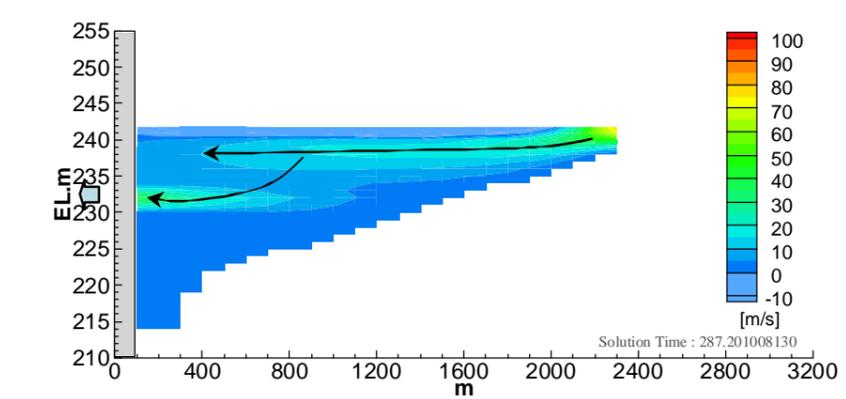
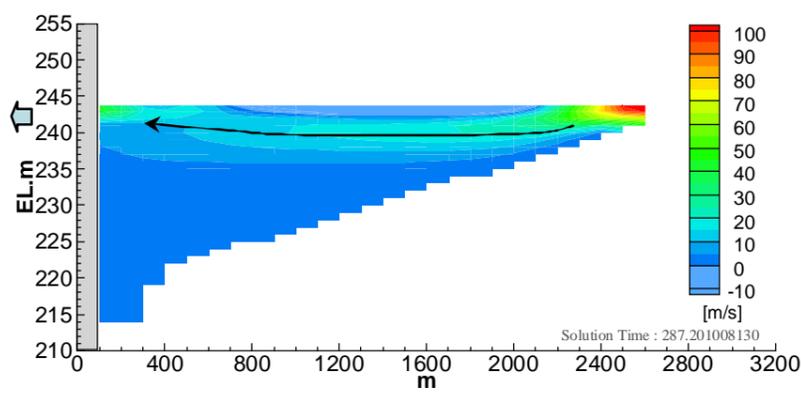
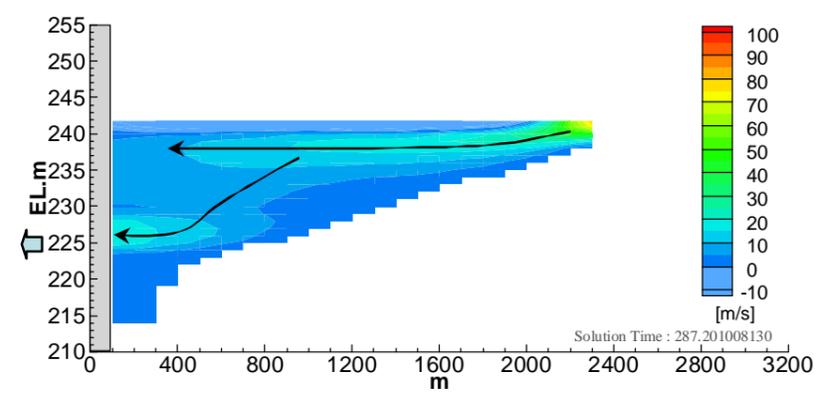
【凡例】

- ⇨ : 放流位置
- ⇦ : 流れの状況を模式的に表したもの

8/13 0時
SSコンター図



水平流速コンター図



水位低下用G(再現)ケース

越流部ケース

常用洪水吐Gケース